

かつらぎ町史

近世史料編

発行にあたって

かつらぎ町長 清端康雄



私たちのふるさとかつらぎ町は、紀ノ川の流れにはぐくまれ、祖先は営々として原野を開き、産業を興し、ゆたかな文化を創造してきました。私たちの祖先の築いた歴史を解明し、その英知に学ぶことが今後の町づくりに生かせると考え、かつらぎ町合併二十周年記念事業の一つとして、昭和五十二年度から町史編集に着手しました。町域内外で収集した三十万枚におよぶ史料を厳選して、昭和五十八年には「古代・中世史料編」を、合併三十周年に当たる本年には「近世史料編」を刊行しました。

これによって、本町域の歴史がいつそう明らかになり、これからの町発展と活力ある未来を創造する町づくりの指針になるものと信じます。本書が町民の座右の書として広く愛され、また歴史愛好者に永く活用されることを願うものであります。

☆神仏分離以前の

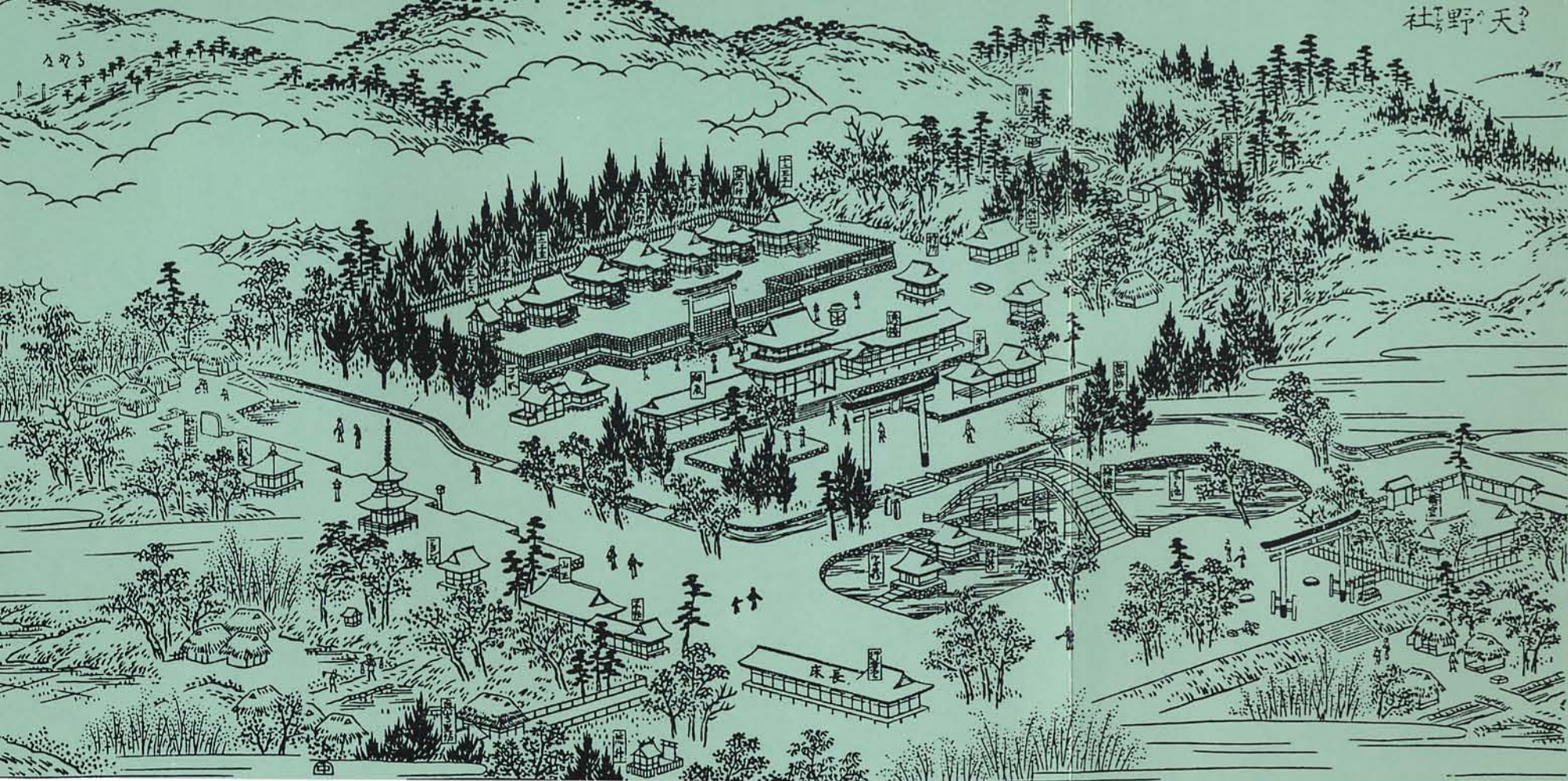
丹生都比売神社

明治時代になるまでは、神仏習合（神仏混交ともいう）といって、神社の境内に寺院（宮寺または神宮寺という）があったり、神社の神体が仏像や種子（仏をあらわす梵字）であったりすることが多くみられました。丹生都比売神社（天野社ともいう）の祭神、丹生都比売神も大日如来が神の姿になって現われたものといわれていました。

この神社は高野山の支配下であり、神主のほかに大勢の僧侶が住んでいました。境内やその周辺には、この絵のように、御影堂・宝塔・山王堂・不動堂・鐘楼・興山寺里坊などが建ち並んでいました。

明治政府は一八六八年（明治元）三月、いわゆる神仏分離令を発し、神社から仏教的な色彩を排除するように命じました。これを受けて、この神社でも一八七三年（明治六）ごろに、寺院に關係するものは強制的に撤去されたようです。

仏像を焼いてつくった炭がいこらなかつたとか、引き取り手のない仏像を高野山の大門の前に置き去りにしたとか、言い伝えられています。地元の人々は、つぶせと命じられて、本当に困ったでしょうが、お上の命令には逆らえず、寺院にかかわるものはすべてこわされてしまい、この神社の現在のたたずまいができて上がったのです。



丹生都比売神社(天野社)「紀伊国名所図会」

かつらぎ町史

近世史料編

第二回配本 発刊のお知らせ!

町史編集事業発足以来、一一年にわたって町内外の所蔵者から収集した膨大な近世史料のなかから五六六点をえりすぐって、一三二〇ページの本にまとめました。史料の選択にあたってとくに配慮したのは、史料が特定の所蔵者や大字(地域)に偏らないようにすること、町域の全部の大字がいずれかの史料に出てくるようにすることでした。今回の「近世史料編」は、前回の「古代・中世史料編」に比べて、私たちの現在の生活にいつそう近い時期のものであり、桃山時代から江戸時代末期までの私たちの祖先の生活をかきまみることができます。ぜひご購入ください。

「こんな興味深い史料がのっています」

*江戸時代の村の状況がわかる一七〇八年の「丁ノ町組指出帳」

河北の紀州藩領の全村(河南の島村を含む)の石高・反別・年貢率・家数・人数・牛馬数・池・寺院・神社・山林などが細かく書かれています。

*村のみんなで決めた村定や若者組の規則

現在の法令と比べてどうでしょうか。冠婚葬祭など生活にかかわる規定がずいぶん多く、定めに背いた者を村八分にするという厳しいものもありました。

*桃山時代の土地台帳である一五九一年の太閤検地帳

河南の高野山寺領では、全村の検地帳を収めました。田・畑・屋敷の状況、年貢を納める人の名前がわかります。

*江戸時代もいろいろな商品作物を作っています

木綿・菜種・紅花・あい・こんにやく玉・たばこ・はぜ・小豆・大豆・えんどう豆・小麦・大麦・粟・きび・そば・なし・柿・蜜柑など、なにを作ればよいか、試行錯誤している状況がわかります。

*柴や下草を取るための入会山をめぐる争い——山論

笠田庄・四郷庄と名手庄・静川庄(現、那賀町)とのあいだで中世から昭和三〇年代まで続く争いをしています。あちらにもこちらにも、多くの争いの史料があります。

*御三家のご威光をふりまわした水利

紀ノ川は紀州藩のものになっていて、寺領の村々は紀ノ川の水も使わせてもらえませんでした。

*紀州でもとくに商業の盛んな土地でした

川上酒・川上木綿・高野豆腐などは江戸・大坂・堺などと取り引きされていました。宿屋・小商いの店もたくさんありました。

*いろいろな寺院や神社の縁起ものせています

寺社などが焼けたのはみな織田信長のため? 信長はえらく悪者にされています。これは作り話のようですが、実際はどうだったのでしょうか。

*幕末の世相

ペリーの来航もすぐにみんなに伝わっています。天誅組の変や長州征伐のときには、村人が人夫として徴発されて大変だったようです。度重なる飢饉や百姓一揆、「ええじやないか」の踊りの記録も入っています。

*奉納額などで俳句が盛んだったことがわかります

皆さんの大祖父さん・大祖母さんやご先祖の俳号がみつかるかもしれません。

既刊	第一回配本	古代・中世史料編
新刊	第二回配本	近世史料編
続刊	第三回配本	近代史料編
〃	第四回配本	通史編

瑞籬の内に自然石を彫みて高麗狗とすあり、高さ五尺許なり、小児両足の間をくぐれば瘡癒かるしといふ。

(紀伊続風土記)



ありまち神社の狛犬

かつらぎ町史編集委員会(一九八八年一月一日現在)

委員長	渡辺 広(和歌山大学名誉教授)
副委員長	小山 靖 憲(和歌山大学教授)
委員	井筒 勝 蔵(元橋本中央中学校長)
〃	岩 倉 哲 夫(伊都高等学校教諭)
〃	後 藤 正 人(和歌山大学教授)
〃	下 村 克 彦(和歌山県教育庁指導主事)
〃	田 村 和 士(元町総務課長)
〃	東 田 一 郎(紀ノ川高等学校教諭)
〃	牧 田 一 郎(元奈良女子大学助手)
〃	溝 端 明 治(元九度山小学校長)
〃	山 陰 加 春 夫(高野山大学助教授)
顧 問	山 本 智 教(高野山霊宝館長)
参 与	熱 田 公 神(神戸大学教授)
〃	大 谷 正 正(専修大学助教授)
〃	中 野 栄 治(近畿大学助教授)
〃	日 野 西 真 定(高野山大学教授)
〃	山 中 永 之 佑(大阪大学教授)

- 本の体裁 A5判 上製本 総頁数三三〇ページ 貼箱入
- 頒布価格 五〇〇〇円

●問い合わせ

〒649-7192

和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町二二六〇
かつらぎ町役場内(総務課)

かつらぎ町史編集委員会
(役場南別館二階)

電話(〇七三三)二二〇三〇〇

郵便振替口座 00910-5-314714

(加入者名 かつらぎ町役場)